

# 薬のことならおまかせ！ 「病院薬剤師」

診療に横断的にかかわるので、  
連携しやすい職種です。

こんな時は  
頼ってください!!

- ❓ 服薬アドヒアランスの向上のためにアドバイスを！
- ❓ 薬の最新情報を教えてください！
- ❓ 薬が飲みにくいのでいい方法はないですか？
- ❓ 薬を一回分ずつ包装してください！
- ❓ 分岐鎖アミノ酸製剤(BCAA製剤)について相談したい！
- ❓ 持参薬を確認してください！



## ＼ 薬剤師ってこんなお仕事です！ /

- ① 服薬のアドバイス…患者さんに薬の適正使用を伝え、アドヒアランスの向上を支援します。服薬が難しい患者さんとは一緒に解決策を考えます。
- ② 持参薬の確認…入院する際の持参薬について調べます。  
粉碎されていたり、後発品はわかりにくく、大変なお仕事です。
- ③ DI(医薬品情報管理)…医薬品情報を管理・収集・提供し、問い合わせにも対応します。
- ④ 調剤・調整…処方箋のチェックと調剤を行います。一回分に包装も行います。
- ⑤ 疑義照会…患者さんの安全を守るため処方内容などについて処方医に確認を行います(気を遣います🙏)  
患者さんのアドヒアランスを把握し、そして科学的根拠をもって疑義照会できる  
よう心がけています！

など

## 薬剤師の肝Co 活動事例

はじめての  
第一歩!

### 持参薬からはじまる関わりがあります。

薬剤師なら持参薬チェックや、服薬のアドバイスは大事な業務。患者さんの残薬などから、服薬の状況も気になりますよね。患者さんが、肝臓に関する薬剤のアドヒアランスを向上していけるような業務も肝Co活動と言えます。患者さんと話をする中で薬を飲めない理由を一緒に考え、解決策を考えます。患者さんの背景をお聞きし、患者さんにわかりやすい言葉で、患者さんの背景に合わせて説明することで支援の方向性が見えてくることもあります。

残薬が多いので  
服薬のタイミングを  
検討されては  
いかがでしょうか  
(医師への提案)



粉薬が苦手なら、  
ゼリータイプもありますよ。  
苦みを感じにくい飲み方も  
ありますよ。  
(患者さんへの声かけ)

こんな  
活動も!

### 普段の薬剤師業務のなかに、 肝Co活動のチャンスが眠ってる！

#### ホップ★

#### B型肝炎ウイルスの再活性化対策から支援へつなげる

再活性化が疑われる薬剤(抗がん剤や免疫抑制剤)の調剤や調製をするときにB型肝炎ウイルス検査をしているか確認や周知を！点滴の抗がん剤は多くの薬剤師でチェックできますが、内服になると人手が少なくなることも。肝Coの研修を受けた薬剤師ならではの視点も大切だと思います。医師が再活性化の疑われる薬剤を処方する際に、アラートが自動で表示されるシステムを導入できるとなおGood！


#### 服薬指導のときにフォローアップの念押しを

特に若い人では、処方された薬を飲み終わった後に通院中断をしてしまうことが多いようです。治療開始時から薬をお渡しする時に「肝炎ウイルスはいなくなっても、肝発癌のリスクは残るので定期検査は必ず受けてください」と意識的に声掛けを。

## ステップ★★

### 患者さんに「なぜ服薬が必要か」を繰り返し説明する

なぜ薬を飲まなければいけないかを理解してもらうことは重要です。服薬アドヒアランスが低い方に対し、専門的な言葉ではなく、患者さんに分かる言葉で繰り返し説明しましょう。そもそも肝臓がどんな働きをしているのか？などから話してもよいかもしれません。



このお薬は効果が  
ないから飲みたく  
ないです。

現状維持が  
できているのは  
お薬の効果ですよ。

### お薬のコストを気にする患者さんも多いです

お薬の金額を気にする患者さんも多くいらっしゃいます。医療費助成について知らない患者さんもいますので、服薬のアドバイスの際に助成制度がある事をお知らせして、詳しい話は医事課など詳しい人につなげることも肝Coの役割です！

## ジャンプ★★★

### 検査結果を踏まえて積極的に声かけを

術前のスクリーニング検査などで肝炎ウイルス検査が陽性と分かったらこれまでの検査歴や通院歴をきいてみましょう。また、糖尿病薬を飲んでいたり、血小板数が低いという人を見かけたら、服薬のアドバイスをする際に、消化器内科の通院歴や、腹部超音波検査の受検歴もあわせて確認できるといいですね。

### 電子カルテにアラートを追加する提案を

再活性化対策として、対象薬剤を処方する際のHBs抗原検査や治療後のフォローアップ検査のアラートが電子カルテに出るように働きかけるなど、医療安全の観点からきっかけを作ることも活動の一つです。

### 保険薬局との連携も

地域の保険薬局との勉強会や、トレーシングレポート等で連携して患者さんをフォローアップするシステムも広がっています。入院期間だけでなく、退院してからも患者さんにとっては心配が多いもの。そんな時にこの連携が役に立ちます。

薬剤師だからこそ横断的にかかわることができます。他の疾患で入院中でも肝疾患の薬を継続する必要性について、患者さんだけでなく、多職種にもお伝えすることも薬剤師としてまた、肝Coとしてできることではないでしょうか





## 先輩肝Co薬剤師からのアドバイス

### ✓ 日常業務のなかで肝Co活動になっていることがあるはず！

「私も肝Coとして何か活動しなきゃ」と焦ることがあるかもしれません。でも、普段していることでも肝Coとしてできていること、できることがあるはず。あまりハードルを高く考えないようにしてくださいね！

### ✓ 薬薬連携で肝Co同士がつながることもあります！

肝Coの薬剤師が少ない場合「自分だけ…」という気持ちになりますよね。でも悩んでいるのはあなただけではありません。病院薬剤部や保険薬局との連携「薬薬連携」などで肝疾患の患者さんを見守ることもできるはず。みんなで悩みを共有して同じ方向を向いていきましょう！

患者さんと「肝炎ウイルスを排除した」という喜びを共有できた時はとても嬉しいです。誰かに頼られることはモチベーションにつながり、薬剤師というだけでなく、肝Coとして頼られるとやってよかったと思います。



肝Coの仲間が多ければ多いほど、同じ肝がん撲滅という目標に向かって活動できます。

### 薬剤師と他職種との連携

サルコペニア対策をきっかけに、栄養士や理学療法士と連携することができます。分岐鎖アミノ酸製剤の継続に必要な情報を他職種との連携で収集し患者さんに説明することでアドヒアランス向上効果もあり、肝Co同士のつながりにも役に立ちます。

